

被爆地ヒロシマが被曝を拒否する
— 過去は変えられないが未来は変えられる —
伊方原発運転差止広島裁判

2021
3
24 水
本誌

第22回口頭弁論期日

第7陣原告の意見陳述を予定しています
傍聴に、応援に、ぜひお運びください

— 福島原発事故後 10 年 —

これから
日本を覆う

セシウム137の内部被曝被害

【写真説明】東京電力 WEB サイトより引用。2011年3月15日に撮影された、水素爆発後の3号機

2021年3月24日当日スケジュール

- 13:30 広島弁護士会館 3F ホール開場
- 13:35 広島地裁南西交差点 集合
- 13:40 広島地裁へ乗込行進開始
- 14:00 傍聴券抽選開始 (10 席程度の見込み)
- (14:00) 進行協議開始 (非公開)
- 14:30 第22回口頭弁論開始 (304号法廷)
※原告による意見陳述を予定
- 14:45 頃 口頭弁論終了・広島弁護士会館へ移動
- 15:00 頃 記者会見・報告会開始

※提出準備書面の解説や、原告意見陳述の再現も行います。ぜひご参加ください。

報告会 ZOOM で遠隔参加できます

参加ご希望の方は下記メールアドレスにてお申し込みください。

✉ hek@hiroshima-net.org

お申し込みの際、件名を「報告会参加」とし、①お名前②所在地 (県・市など)

③連絡先電話番号をご連絡ください。

申込締切日：2021年3月22日 (月)



16:30 頃 終了予定

【主催】伊方原発広島裁判事務局

〒733-0012 広島市西区中広町 2-21-22-203

E-mail : saiban_office@hiroshima-net.org

URL : https://saiban.hiroshima-net.org

☎ 090-7372-4608



2011年3月に発生した福島原発事故を私たちは片時も忘れることはありません。なぜなら、その被曝被害は現在も進行中であり、さらに原発を動かして続ければ、日本列島は放射性物質による環境汚染をさらに深刻に被るほかないからです。

ヨウ素 131 の与える健康被害

福島原発事故では、燃料の核分裂から生じたさまざまな放射性物質いわゆる「死の灰」が、環境中に大量に放出されました。

福島原発事故で放出された放射性物質のうち、特に大量に放出され、初めに最も深刻な健康影響を与えたものはヨウ素 131 です。代謝を促進するホルモンを作り分泌する甲状腺という器官は、ヨウ素を吸収して集める性質をもっています。福島原発事故被災地で青少年に甲状腺がんが多発しているのは、明らかに福島原発事故で放出されたヨウ素 131 の被曝影響です。しかしヨウ素 131 の健康影響は、甲状腺がんに限定されるものではありません。1986年に起こったチェルノブイリ原発事故後最初の1年間には、「ヨウ素ショック」と呼ばれる様々な非がん性疾患が増大しました。また乳児の呼吸器系器官発達を阻害しているという報告もあります。このような健康影響は当然に福島原発事故でも存在しているはずで

続きは裏面をご覧ください

－福島原発事故後 10 年－

これから
日本を覆う

セシウム137の内部被曝被害

表面より続き

現在も日本を覆う放射性物質

しかしヨウ素 131 の物理的半減期は 8 日間なので、事故後 10 年の今日、福島事故大量放出期由来のヨウ素 131 はほとんど存在しません。

それでは、福島原発事故で放出された放射性物質はすでに環境中で問題にならないほどに減ってきているのかと言えば、決してそうではありません。なぜなら、事故を起こした**福島第一原発は現在も放射性物質を放出し続けています**し、福島原発事故でこれも大量に放出された半減期 30 年のセシウム 137、半減期 29 年のストロンチウム 90 など、寿命約 100 年の人間にとって長い半減期を持つ放射性物質が日本を覆い続けているからです。これらは日常的に、大気に混じって呼吸によって体内に摂り込まれたり、動植物に吸収されて食品摂取とともに体内に入ってきたりしています。

これらの放射性物質は人間の健康にどのような影響を及ぼすのでしょうか。

チェルノブイリ事故に見るセシウム 137 の影響

1986 年、旧ソ連のチェルノブイリ原発は原子炉暴走事故を起こし、北半球全体を放射能で汚染させました。チェルノブイリ原発は現在ではウクライナ領土にありますが、表 1 は事故後 25 年、2010 年の全ウクライナ死亡原因表です。**冠動脈性心疾患や脳血管障害など明らかにセシウム 137 が原因と思われる死因が上位を占めています。**

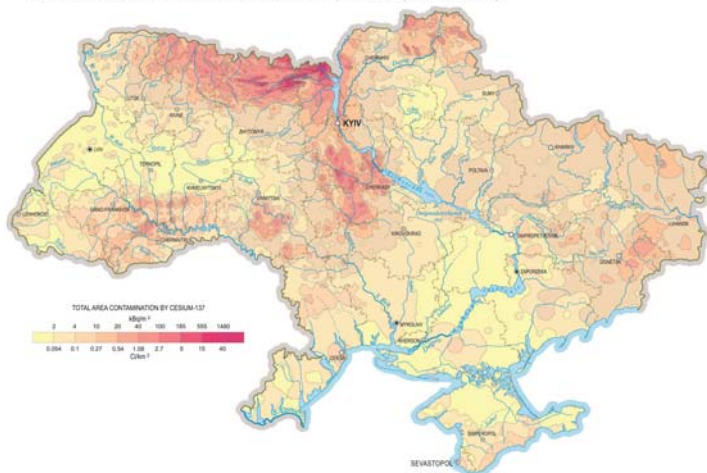
ウクライナ政府も、中長期的にはセシウム 137 が最も警戒すべき放射線核種とみて、図 1 のような**セシウム 137 ウクライナ全土汚染マップ**を作成し、その**環境汚染の推移を注意深く見守り警戒を怠っていません。**

ところが、日本では「チェルノブイリ事故で発生した人的被害は青少年の間に発生した甲状腺がんのみ」という原発推進の IAEA などの報告を盾にとって、福島県に限定した、それも青少年を対象にした甲状腺がん調査しか行っておらず、**中長期的にもっとも警戒すべきセシウム 137 による健康影響については全く無視**しています。

実際、チェルノブイリ原発事故によるセシウム 137 の健康影響については、多くの学者・研究者、あるいは政府機関などの調査研究が存在します。ウクライナと並んで事故の影響を最も受けた隣国ベラルーシのバンダジェフスキーは、ほんのわずかのセシウム 137 (50 ベクレル /kg 程度) でも、胎児・乳幼児などを死に至らしめることがある事実を病理解剖の結果、明らかにしています。

図 1 ウクライナ・セシウム137汚染土壌マップ²2011年予測

CONTAMINATION OF THE TERRITORY OF UKRAINE BY CESIUM-137 (AS OF MAY 10, 2011)



【資料出典】ウクライナ政府：『チェルノブイリ事故後 25 年：未来へ向けての安全』(Twenty-five Years after Chernobyl Accident: Safety for the Future) (2011年4月) 英語テキスト84 p より

表 1 ウクライナの死亡原因 (2010年)

順位	死亡原因	死亡者数	率	備考
1	冠動脈性心疾患	338,108	49.36%	心筋梗塞、狭心症など
2	脳血管障害	105,724	15.43%	脳軟化症など
3	後天性免疫不全症候群	24,087	3.52%	HIV/AIDS
4	肝臓疾患	23,723	3.46%	
5	その他傷害	16,984	2.48%	
6	肺がん	14,548	2.12%	
7	直腸がん	13,271	1.94%	
8	肺疾患	12,851	1.88%	
9	結核	12,329	1.80%	
10	毒死	11,306	1.65%	
11	胃がん	10,688	1.56%	
12	交通事故死	9,424	1.38%	
13	自殺	9,289	1.36%	
14	乳がん	8,560	1.25%	
15	心臓弁膜症	7,119	1.04%	
16	膵臓がん	4,266	0.62%	
17	暴力事件死	3,723	0.54%	
18	口腔がん	3,663	0.53%	
19	前立腺がん	3,638	0.53%	
20	不慮の墜落死	3,516	0.51%	

【参照資料】World Life ExpectancyのWebサイト。WHOの資料を丹念に分析し資料化している。

注意深く周りを見てください

福島原発事故後の日本でも、チェルノブイリ事故後のウクライナ、ベラルーシ、ロシア同様、セシウム 137 が猛威をふるうだろうことは容易に想像が付きまします。原子炉で生成される死の灰の中身はほぼ同じなのですから。日本では政府がセシウム 137 の中長期的影響を無視しているので、一般には注意を引けません。が、よく身の周りの出来事を観察してください。突然心臓病で緊急入院する人が増えていないか？あるいは虚血性心疾患で昨日まで元気だった人が突然亡くなったりしていないか？

福島事故後、わずか 10 年。セシウム 137 が本格的に人びとを蝕むのはこれからなのです。